

要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	2022年度 評価指標	いくとびあ食花4施設				4施設合計	2022評価	2022評価コメント	
			食と花の交流センター	食育・花育センター	動物ふれあいセンター	こども創造センター				
市民	入場者数	いくとびあ食花4施設の来場者数 : 1,600,000人以上/年	○				1,506,646人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)	
	団体利用	食と花の交流センター : 利用団体360団体以上/年		○				151回	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
		食育・花育センター : 利用団体450団体以上/年			○			312回	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
		動物ふれあいセンター : 利用団体450団体以上/年				○		317回	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
		こども創造センター : 利用団体400団体以上/年					○	333回	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
	体験と学習	団体系験プログラムの実施 : 400回以上/年	○					400回	B	指標のとおり
	交流の拡大	交流イベント : 8回以上/年	○					8回	B	指標のとおり
	多彩な事業展開	食・花・こども・動物分野のコラボ事業の実施 : 年130回以上/年	○					305回	A	指標を大きく上回った
	食育・花育の推進	料理教室等の開催 : 年170回以上/年 (主催・共催・委託を含む)			○			237回	A	指標を大きく上回った
		園芸講座等の開催 : 90回以上/年 (アトリウムでの開催を含む)				○		123回	A	指標を大きく上回った
	食と花のプロモーション	プロモーション事業 : 10回以上/年		○	○			124回	A	指標を大きく上回った
	譲渡事業の推進	・市に収容された犬の譲渡率:70%以上/年 ・市に収容された猫の譲渡率:39%以上/年				○		犬:84.6% 猫:85.2%	A	指標を大きく上回った
	広報の充実	・HPの情報更新 : 300回以上/年 ・アクセス件数 : 40万回以上/年	○					・HPの情報更新:555回 ・アクセス件数 : 448,290回	A	指標を大きく上回った
利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	○					98.4%	A	指標を大きく上回った	
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	○					指定管理収支が赤字	C	指定管理収支が赤字
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	○					適正に実施	B	指標のとおり
業務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	○					・防災訓練:2回実施 ・マニュアル作成済	B	指標のとおり
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 : 1回以上/年	○					1回	B	指標のとおり
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 : 90%以上	○					90%	B	指標のとおり
	関係団体・地域との調整	関係機関・地域との連絡調整会議の実施 : 1回以上/年		○				5回	A	指標を大きく上回った
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ : 延べ800人/年以上	○					601人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
		市内の動物関係団体等との連携事業 : 6回以上/年				○		12回	A	指標を大きく上回った
		市内の子ども創作・体験活動に関する個人および団体等との連携事業 : 200回以上/年					○	182回	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 : 延べ50人/年以上	○					48人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)	
施設の稼働	年間休館日数 : 24日以内/年	○					21日	A	指標を大きく上回った	
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	○					適正に実施	B	指標のとおり
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 : 1人あたり2回以上/年	○					7.2回	A	指標を大きく上回った
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 : 90%以上	○					93.8%	A	指標を大きく上回った
	支援者の育成	支援者研修会の実施 : 12回以上/年				○		223回	A	指標を大きく上回った

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

■ 食と花の交流センター

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に取り組みながら、制限の見直しに合わせて運営を行ってきた。交流イベントについては計画どおり8回開催することが出来た。団体利用は、151団体(前年度比+39団体:135%)、4,840人(前年度比較+1,018人:126%)で、令和元年以前に比べるとまだ少ない状況であった。団体の内訳としては新潟市内・県内の団体が92%を締めており、新潟県外からの団体は7%と少なかったが、前年度と比較すると増えてきている。年間の来場者数704,479人(前年度比+21,562人:103%、前々年度比+93,031人:115%)となり前々年度、前年度をともに上回った。

今年度の取組み、成果としては次の点が挙げられる。

1. SNSを積極的に活用し、施設の情報発信を行った。3月末でフェイスブックのフォロワー数は約2,100人、インスタグラムのフォロワー数は約1,800人。
2. 食と花のプロモーションとして、ガーデニング、植栽管理の実施に加えて、ガーデンでの実地講座を4回開催することが出来た。
3. 体験農園では16区画運営し、講座も含めて計12回の活動を行い、子ども連れの家族にも参加していただくなど、大変好評であったが、畑の排水設備不足と土壌が劣化したことが原因と思われる病害虫の被害が増えた事により、土壌改良に取り組んでいく必要がある。今後も、職員が協力し合い、いくとびあ食花が皆様の憩いの場となるよう努めていきたい。

■ 食育・花育センター

今年度は、飲食を伴う活動の中止が4月5日で終了となり、6日から料理教室やミニ体験等、調理実習室での開催が通常の活動となった。また、8大イベントも予定通り開催できた。

今年度の取組における成果としては、次の二つが挙げられる。

- 1 連携事業としていくとびあ食花内のコラボが前年度4回に対し、32回と大幅に増加でき充実して実施することができた。今後、市及び地域・関係団体等の連携も更に深めていきたい。
- 2 利用者アンケートで高い満足度の評価を得た。来館者2,645人から回答をしていただいたアンケート結果で、施設満足度は98.8%、接客満足度99.4%という高い評価を得ることができた。

課題としては、「物損・施設破損等」が14件(前年度比較+4件)に増えたことが挙げられる。来館者が安全で安心して体験活動が行うことができるように、今後とも安全点検の徹底と早急な修理・修繕に努めていきたい。

また、常設事業利用者の増加に伴い展示コーナーの充実にも努めたい。

特色のある体験プログラムの開発・実施として花育体験は次年度回数を増やしていく予定としているが、食育ミニ体験などの内容の充実も図っていきたい。

■ 動物ふれあいセンター

動物ふれあいセンターの来場者数は340,362人(前年度比+81,280人:131.4%)と大幅に増加した。前年度は新型コロナウイルスの影響により計45日間閉館したことにより来場者が少なかったが、本年度は行動制限の緩和やマスクの着用自由化により1月から3月にかけてはコロナ禍前以上の来場者数となった。休館日を除く1日平均989人(昨年度比+92人:110.3%)

団体利用に関しては、317団体(前年度比+81団体:134.3%)の利用があり前年度を上回った。目標数値は大きく下回ったので、他施設との連携を増やし、学校関係の情報収集を行い利用促進に努めたい。

体験と学習に関しては、113団体(前年度比+47団体:240.4%)と大幅に増加した。受入時間など学校からの要望に可能な限り対応し、施設としての目標100団体は達成することが出来た。

譲渡の推進については、昨年度から参加人数を制限しながら毎日譲渡会を開催しており、滞りなく譲渡を行えた。子猫の受入れ頭数が前年度から-23匹であったため今後も受入れ頭数が減るように無責任な餌やりなどへの啓蒙活動を行いたい。

その他、誘客活動として、他施設との新たなコラボ企画を行い、アンケート満足度97.4%(前年度比-0.2%)と多くの来場者から満足との回答を頂いた。

HPにおいてはアクセス件数が448,290回(前年度比+7,044回:101.6%)と前年度を上回った。次年度においては、HPのアクセス件数、SNSによる情報発信に力を入れて来場者増加、来場者満足度に繋がる情報発信を行っていききたい。

また、今年度よりモルモットの譲渡事業を開始し、展示動物飼育管理費の削減や譲渡先の校園との繋がりを深めることが出来た。

次年度においては、更なるお客様満足度の向上のためスタッフ個々のスキルアップ研修などを行い、見て楽しめる掲示物やいくとびあならではのイベントを開催し多くの来場者の獲得に努め、各種目標達成のために努めていきたい。

■ こども創造センター

令和4年度はコロナ禍により開館344日(令和3年度290日)であったが、年間利用者数182,713人・一日平均利用者数531人となり、前年度を上回った。前年度に引き続き県外の方の減少や市外県内の方の減少があったが、新潟市民の身近なお出かけ先としての定着・拡大が進んでいる。また、乳幼児を連れた若い世代、とりわけイクメンパパのさらなる増加が見られ、上中越・佐渡・村上や特別支援学校の修学旅行先としての利用もあった。

平日利用の増加については、「ベビーマッサージ教室」・「親子リトミック」・「わらべうたと絵本」・「ストレスケア教室」・「英語音楽あそび」・「赤ちゃんと産後ママの為のエクササイズ」・「音楽の花束」等の平日開催サポーター協働型乳幼児向けイベントが増加・定着し、口コミなどで広がっていることが伺える。

<次年度重点事項>

○乳幼児を連れた利用者の方が楽しめる事業をさらに継続・発展させるとともに、夏休み中の小学生や年度末・年度初めの新潟市転入の親子さんのさらなる利用促進に努める。また、先進的な幼児教育や新潟市子ども条例のさらなる啓発活動を行う。

○コロナ禍対応と公共教育施設使用マナーのさらなる啓発を継続し、安心・安全で楽しく使える施設の周知を進める。

○ボランティアとの協働等により、年間20万人程度というこども創造センターキャパシティを超える場合の対応に備える。

所管課による総合評価(所見)

いくとびあ食花各施設の設置目的や事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限や飲食制限が緩和されたこともあり、来場者数や団体利用数は、指標達成には至らなかったものの各施設ともに前年・前々年を上回る状況となった。

また、来場者満足度も98.4%と、例年に引き続き高水準を維持しながら目標値を大きく上回った。これは、ウィズコロナ時代を見据えながら適切な感染症対策を講じていることが施設利用者の安心に繋がったこと、またそのような状況の中で来場者が楽しめるよう創意工夫を凝らしたイベントを企画に努めたことなどが高い評価に繋がっているものと考えられる。

食と花の交流センターでは、花とみどりの展示館の利用数が前年度の倍近くとなり、貸館収入の確保に努めた姿勢を評価する。収支についても食と花の交流センター単体で見れば黒字であった。食育・花育センターではいくとびあ食花の特色を活かし、「食」と「花」を軸に来館者により楽しんで貰えるような施設間等のコラボイベントを数多く実施した。動物ふれあいセンターでは新たにモルモットの譲渡事業を開始したり、こども創造センターでも「ベビーマッサージ教室」や「親子リトミック」などの平日開催サポーター協働型乳幼児向けイベント件数を増加・定着させ平日利用増に努めており、4施設いずれも前年度よりも企画を充実させ、各目標達成に向け着実に取り組んでいる姿勢を高く評価する。

令和5年度からは新たな指定期間となった。引き続きウィズコロナ時代に合わせた適切な感染症対策を講じながら、4施設の特長を活かした企画をさらに充実させ、多くの方々に満足いただける施設となるよう取り組んでいただきたい。